

小学校の事例 東区 栄北小学校

年2回の行事でも、「徹底的にきれいにする」結果を見て変わる環境意識。

行事として取組んできた校区内のごみ拾いや石拾い。自分たちの関わる場所を徹底的にきれいにする習慣が児童全体の環境意識を底上げし、学校内に限らない、広い視野での考え方ができるようになる。

内容 行事としてのごみ拾いや石拾いから自発的な清掃活動へ

本校では、環境美化や安全な校区・環境づくりとして学校周辺のごみ拾いや石拾いを行っている。4～6年生が通学路のほか、春は地域の小さな公園を、秋は同じく地域の大きな公園を、それぞれ年1回ずつきれいに清掃している。清掃活動を行うことで子供たちに意識の変化が見られ、現在では普段の清掃において

も単なる掃除にとどまらず、壁の汚れをスポンジですすって落としていたり、兄弟学級の教室内外を掃除し、机やイスの脚なども雑巾できれいに拭いたり自発的な行動が頻繁に見られるようになった。



ごみ拾い

効果 意識変化の要は「徹底的にムラなく」

学校外での意識の変化がみられている。広いエリアでの意識付けができ、広い視野で物事を考えられるようになってきているようだ。

後の結果を見て、子ども全体の意識が高まり、学校内でもごみが減ってきている。さらに学校内ではごみを分別する行動が浸透してきている。ひとつの(環境保全)行動が、また別の活動へとつながっていくことが期待できる。

今後 身近な場所を 少しの工夫で 当り前にきれいにする

まずは児童の身近な場所(例:普段遊んでいる公園)をきれいにするという活動から、だんだんと視野を広げられるような意識付けのできる活動がよいのではないかと考えている。



堆肥を入れた土で花植え

少し工夫できるような道具を子供たちの手にとりやすい場所に配置することで、小学生でもどんどん行動できるようになる。それが「当たり前のこと」「普通のこと」に変わり、子供たちの視野が広がるのが願いである。

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校から メッセージ

6月初旬の4日間を「花いっぱい学校にしよう」週間とし、1～3年生がプランターにマリーゴールド、ペチュニア、サルビアなどの花の苗を植えています。プランターは校門周辺や正面玄関、東玄関前に並べ、水やりなどの世話も自分たちで行っています。

小学校の事例 北区 新琴似西小学校

魚たちが棲む川を観察。生き物を守る心を育み、清掃活動。

川を観察し調べて清掃することで、目的意識がはっきりと。様々な生き物を発見できることでも興味が高まり、自然を守り地球環境を考える方向に。

内容 川を観察して学び 行動する

本校では、平成22年度から、4～5年生の総合的な学習の時間において、学校近くの川を題材に地域の環境について考える取組を行っている。

を実践した。この活動はまず、川に行き「どんなところか?」「いまはどんな状況か?」を観察。落書きを見つけた際は、次の時間、学校の清掃用具を持参し、クラスみんなで川へ行き、きれいに消している。

4年生は「身近な地域の環境を考えよう」という単元において、川の生き物を観察し、「そもそも川はどこから流れてくるの?」と調べ、川の上流まで歩いて観察した結果をまとめた。

5年生についても同様の単元を設け、川の清掃活動



川観察の様子

効果 観察の結果から 環境について意識

河原には魚や鳥、虫など、児童の興味を引く様々な生き物がある。観察を通じて、「環境」についてさらに守りたいという意欲と行動につながっている。

ポスターを制作し、校内に掲示するという、自発的な行動につながった。これは多くの生き物が棲む川を大切にしたい、という気持ちが育まれている証であろう。

4年生の学習では、「川に捨てられているゴミが多かった」という観察結果が、川の美化を啓蒙する

今後 身近なところから 実践できる取組を

身近なところから環境への意識を育むため、今年度は学校全体で「無駄を減らすこと!」を目標に掲げ、電気の消費量を大幅に減らすことに成功した。

環境について学ぶことは今はまだ「特別なもの」とされている面があるが、今後は児童の日常生活の中で自然に身につくよう指導し、その中から地球環境全体への意識を育てていきたいと考えている。

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校から メッセージ

環境学習は、山や川、工場や事業所など、地域の中にある素材を利用して行うのが望ましいと思います。安春川での活動は、主に遊歩道を利用しており、安全面の心配もあまりないのでおすすめです。川では足をつけて遊ぶことができるので、安春川での活動を取り入れられる学校があれば、ぜひ活用してほしいと思います。